

陸奥国中部の様相

宮城県教育庁文化財課 高橋 透

はじめに

本発表では陸奥国中部にあたる宮城県域で出土する施釉陶磁器について、最初に多賀城跡など城柵官衙遺跡、次にその他の遺跡の出土状況を整理し、全体の様相についてまとめます。

1. 多賀城跡

多賀城跡で出土する施釉陶磁器は、緑釉陶器が 1/4 程度と高い割合を示し、国府という性格を反映したものといえる（第 1 図）。また貿易陶磁が 60 点を超え（第 1 表）、東国の地方官衙でも有数の出土量である。

多賀城内における各地区の緑釉・灰釉陶器の割合や 100 m²あたりの破片数を見た場合（第 1 図）、地区ごとの偏差が大きい。これはそれぞれの地区の性格や使用形態の違いに起因していると考えられる。すなわち、政庁地区は儀礼や政務の場であり、土器そのものが廃棄されないため 100 m²あたりの破片数が少なく、9 世紀代に四面廂付建物が並び格式の高い空間であった六月坂地区も同様と考える。一方、政庁南面（城前官衙）地区（第 4 図）や東門・大畠地区は実務官衙であるため政庁地区などより 100 m²あたりの破片数が多く、また西門・五万崎地区は饗宴にかかる施設の存在が想定されるため緑釉陶器主体で集中的に出土し、南辺西地区（第 5 図）は祭祀に関連して多数の施釉陶磁器が用いられたとみられる。

施釉陶磁器の時期について、A 期（9 世紀前半～中葉）から灰釉陶器を中心に出土がみられ、B 期（9 世紀後半～10 世紀前葉）に出土量のピークを迎える。C 期（10 世紀前半～11 世紀初頭）は出土量が急減し、灰釉陶器よりも緑釉陶器の出土が多くなり、D 期（11 世紀前半～後半）は灰釉陶器のみで極めて少なくなる（第 2・3 図）。貿易陶磁は白磁 I 類または越州窯系青磁 I 類が主体である。

2. 山王遺跡・市川橋遺跡

多賀城跡の南面に位置し、方格地割が確認されている山王・市川橋遺跡では、報告されている資料だけでも

2,000 点以上の施釉陶磁器が出土しており、特に東西大路沿いの北 1 西 7 区、北 1 西 3 区、南 1 西 2 区で多数確認できる。なお、北 1 西 7 区出土する施釉陶磁器については、小原報告を参照されたい。

3. その他の城柵官衙遺跡

多賀城跡周辺を除く城柵官衙遺跡からは、施釉陶磁器の出土は非常に少なく、伊治城跡、宮沢遺跡、東山官衙遺跡、壇の越遺跡、三十三間堂官衙遺跡などで出土しているが、1～5 点程度である（第 7 図）。陸奥国分寺跡・国分尼寺跡でも出土はわずかであるが、陸奥国分寺跡から南へ約 2 km の若林城跡からは、金泥の付着した灰釉陶器皿が出土している。

4. 城柵官衙遺跡以外の遺跡

城柵官衙遺跡以外で施釉陶磁器が出土する遺跡は合計で 64 遺跡確認でき（第 6 図）、緑釉・灰釉陶器の両方が出土するのは 15 遺跡、緑釉陶器のみが 9 遺跡、灰釉陶器のみが 38 遺跡、青磁または白磁が出土するのは 2 遺跡である。県南部内陸、鳴瀬川周辺、名取川周辺で出土遺跡が多く確認できる。

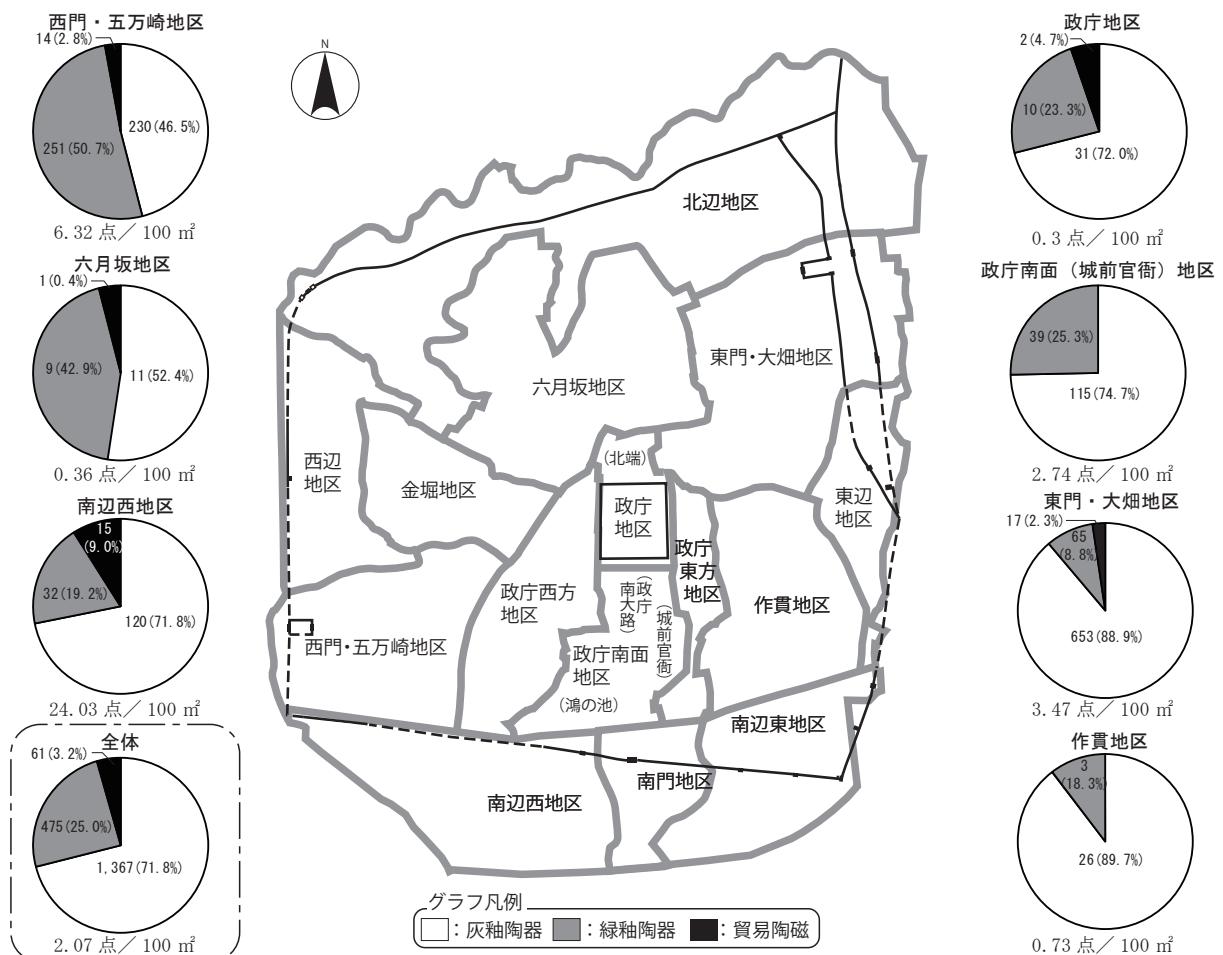
出土破片数では、中田南遺跡が 22 点と最も多く、10 点以上出土する遺跡には今市遺跡、安久東遺跡、梅ヶ久保遺跡がある。そのほか、郷楽遺跡では外面に陰刻花文の施される緑釉陶器瓶（第 8 図 4）、一本柳遺跡で灰釉陶器水注（10）が出土し、いずれの遺跡も豪族居宅と推定されている（菅原 2007・2008）。

おわりに

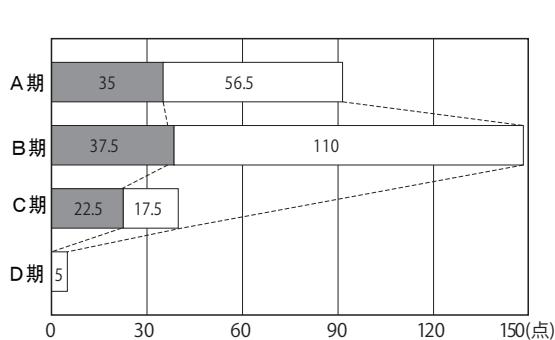
陸奥国中部では、多賀城跡やその周辺で施釉陶磁器が多数出土し、地区ごとの偏差、特徴的な使用状況などが明らかとなった。一方、それ以外の城柵官衙遺跡では出土が極めて少なく、城柵官衙遺跡以外では県南部内陸部や主要河川周辺を中心に豪族居宅とみられる遺跡などで比較的多く出土する傾向が伺われた。

主要参考文献

宮城県多賀城跡調査研究所 2020 『多賀城跡出土施釉陶磁器』



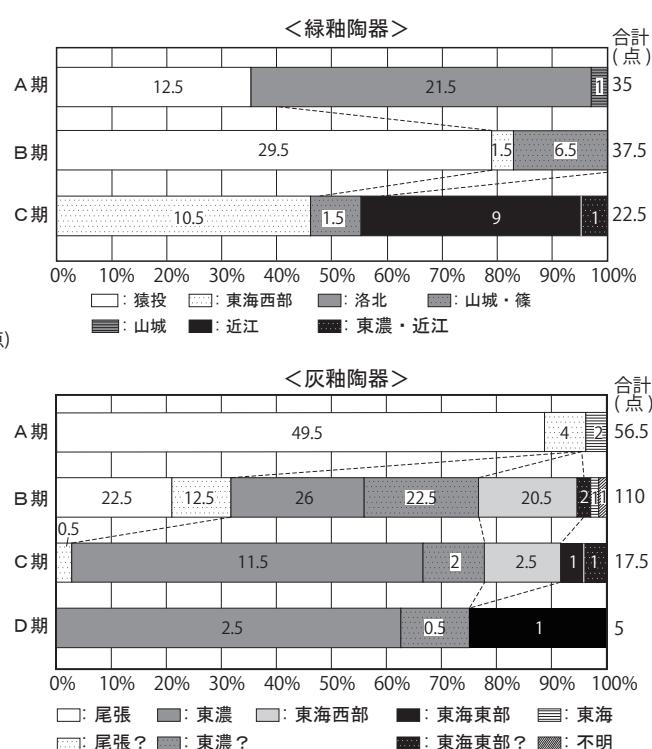
第1図 地区ごとにみた施釉陶磁器の破片数の割合



第2図 緑釉・灰釉陶器椀・皿類の時期変遷

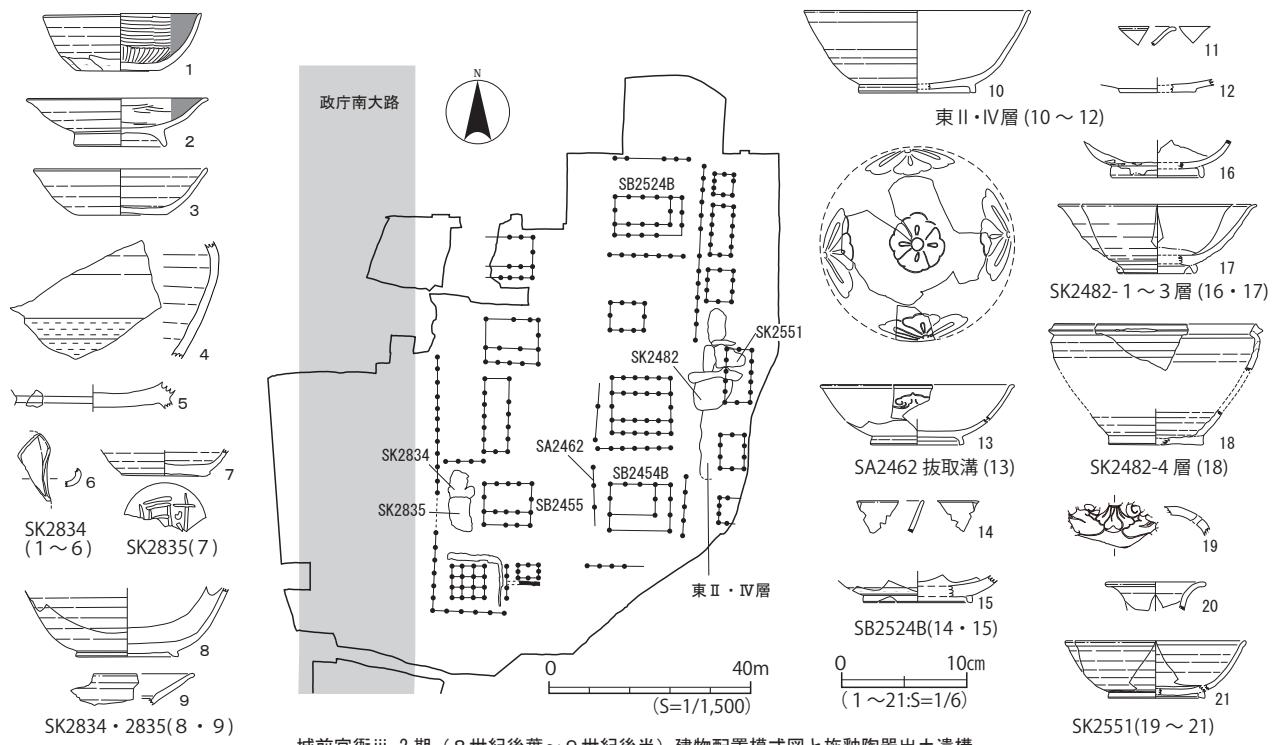
	白磁		青磁	
	破片数(点)	割合(%)	破片数(点)	割合(%)
碗	21	67.7	11	36.7
皿	3	9.7	7	23.3
碗・皿	2	6.5	8	26.7
壺・水注	5	16.1	4	13.3
合計	31	100	30	100

第1表 青磁・白磁の器種構成



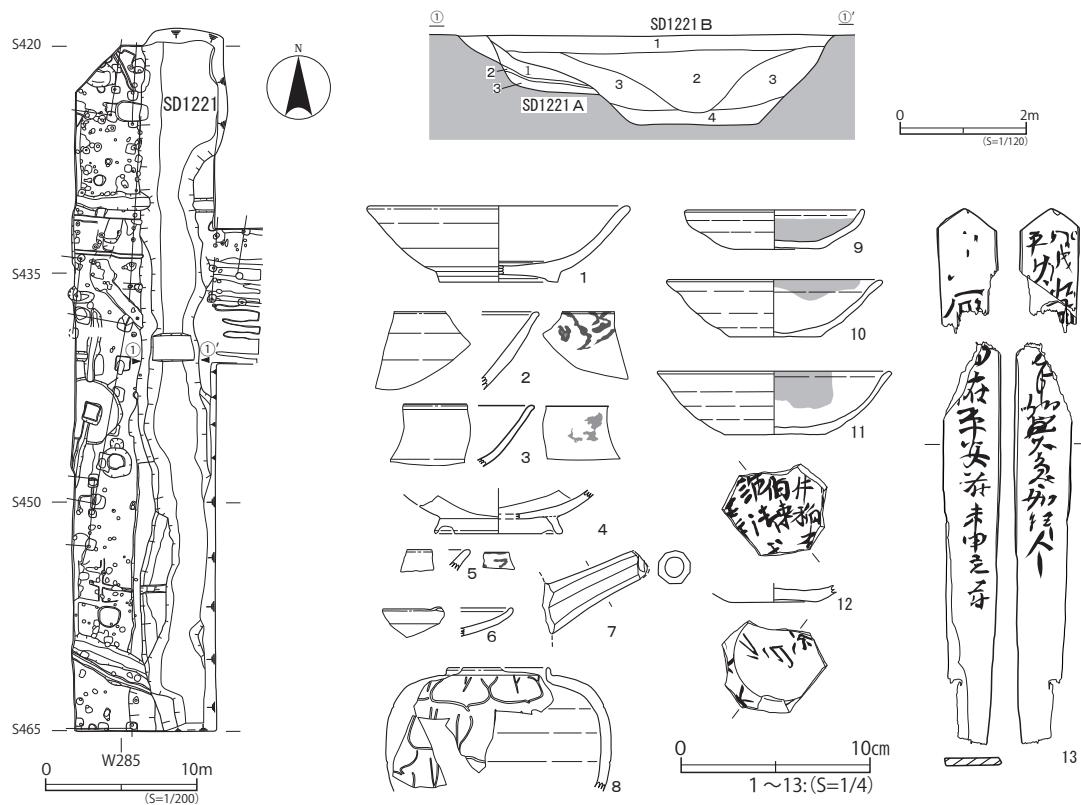
第3図 緑釉・灰釉陶器における時期ごとの産地の変遷

*第3・4図では、複数時期にわたるものは各期に均等割りして計数。

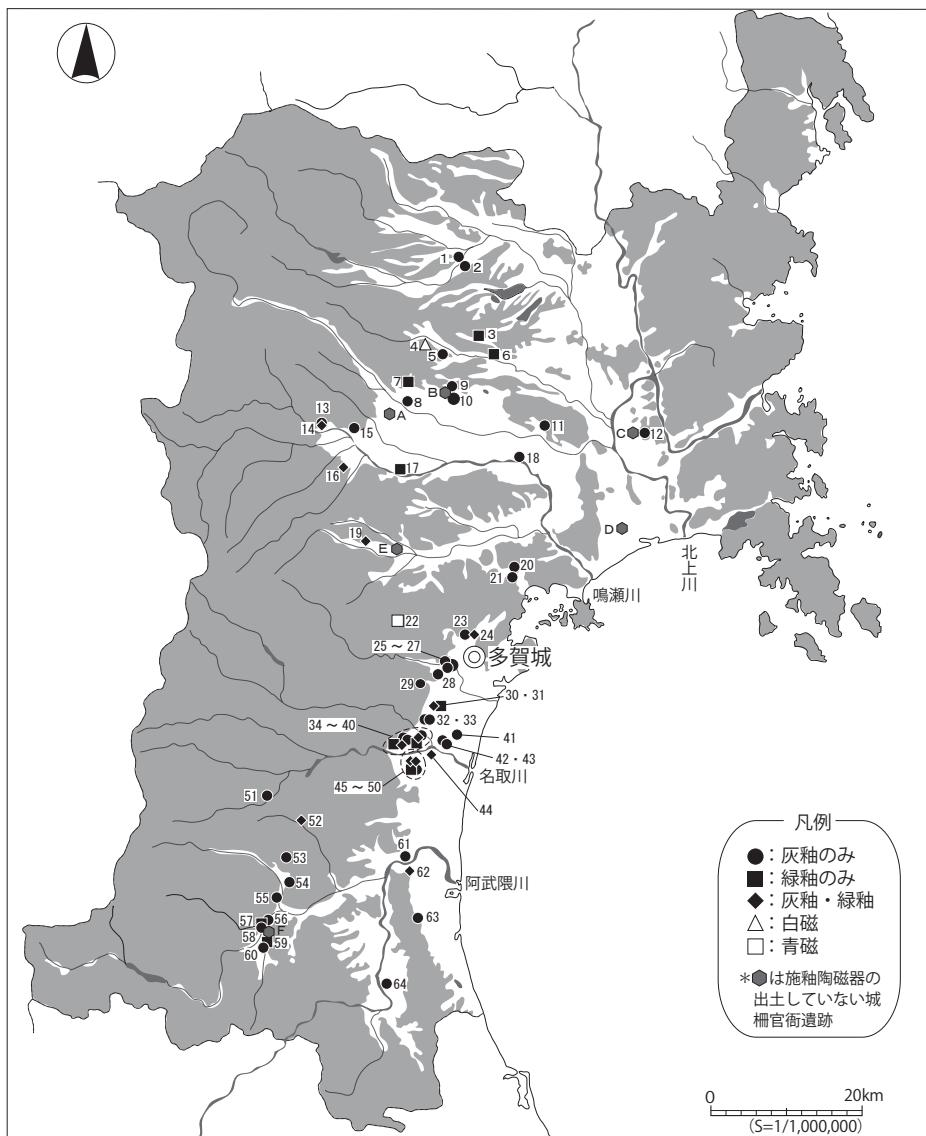


城前官衙iii-2期（8世紀後葉～9世紀後半）建物配置模式図と施釉陶器出土遺構
(宮城県多賀城跡調査研究所 2019に加筆)

第4図 政府南面（城前官衙）地区における土器の出土状況

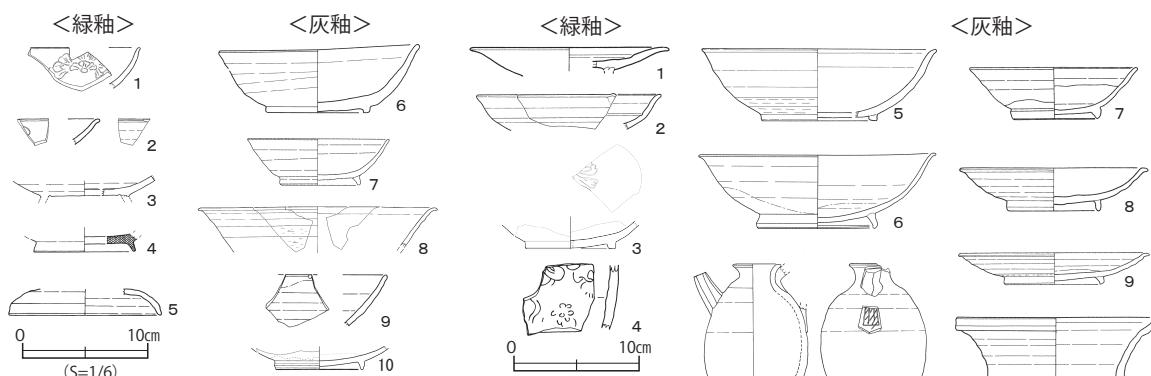


第5図 南辺西地区 SD1221 出土の被熱した緑釉陶器（1～8）と灯火器（9～11）・墨書土器（12）・木簡（13）



1: 伊治城跡、2: 源光遺跡、3: がんげつ遺跡、4: 西手取遺跡、5: 経ヶ崎遺跡、6: 下富前遺跡、7: 宮沢遺跡、8: 南小林遺跡、9: 北小松遺跡、10: 団子山西遺跡、11: 黄金山南遺跡、12: 新田東遺跡、13: 東山官衙遺跡、14: 壇の越遺跡、15: 城生柵跡、16: 色麻古墳群、17: 中沢・堤根遺跡、18: 一本柳遺跡、19: 中峯A・C遺跡、20: 館山遺跡、21: 小森遺跡、22: 兵六館跡、23: 津乙遺跡、24: 郷楽遺跡、25: 鳴ノ巣遺跡、26: 今市遺跡、27: 岩切畑中遺跡、28: 燕沢遺跡、29: 桥江遺跡、30: 陸奥国分寺跡、31: 陸奥国分尼寺跡、32: 南小泉遺跡、33: 若林城跡、34: 山口遺跡、35: 郡山遺跡、36: 六反田遺跡、37: 鍛冶屋敷前A遺跡、38: 富沢遺跡、39: 元袋・元袋III遺跡、40: 伊古田遺跡、41: 下飯田東遺跡、42: 今泉城跡、43: 今泉遺跡、44: 中田畠中遺跡、45: 安久東遺跡、46: 中田南遺跡、47: 塙腰遺跡、48: 清水遺跡、49: 八幡遺跡、50: 町裏遺跡、51: 二本松遺跡、52: 梅ヶ久保遺跡、53: 戸の内脇遺跡、54: 東山遺跡、55: 下原田遺跡、56: 家老内遺跡、57: 明神脇遺跡、58: 青木遺跡、59: 観音崎遺跡、60: 本郷遺跡、61: 原遺跡、62: 三十三間堂官衙遺跡、63: 堀の内遺跡、64: 角田郡山遺跡、A: 名生館官衙遺跡、B: 新田柵跡、C: 桃生城跡、D: 赤井官衙遺跡、E: 吉岡官衙遺跡、F: 大畑遺跡

第6図 陸奥国中部（宮城県域）における古代の施釉陶磁器出土遺跡
(1~64が施釉陶磁器出土遺跡、A~Fが施釉陶磁器の出土していない城柵官衙遺跡)



1: 陸奥国分寺跡 SI30、2: 陸奥国分尼寺 SK301、3: 宮沢遺跡堆積層、4: 三十三間堂官衙遺跡表土、5: 塙の越遺跡 SI897、6: 陸奥国分尼寺跡 SK16、7: 角田郡山遺跡 SX02、8: 塙の越遺跡 SK1930、9: 塙の越遺跡 SI833、10: 伊治城跡 SK627

第7図 城柵官衙遺跡出土の施釉陶磁器

第8図 城柵官衙遺跡以外の遺跡出土の施釉陶磁器